

土壤医検定試験 3級合格体験記

— 土壤医検定を通して —

高木 栞*

1 土壤医検定を受けたきっかけ

私は現在、長野県南安曇農業高等学校に通っています。高校では、1年次に農業と環境の授業でメロンや地大根である「牧大根」の栽培と研究を行いました。2年次以降は果樹を中心に栽培方法を学び、果実の品質向上に向けた研究を行いました。

私の家は非農家で、高校入学前は農業に関してほとんど知識がなかったため、1年次のメロン栽培の際、多量の化学肥料を施肥することに正直驚きました。肥料にはそれぞれ役割があること、その役割を把握しバランスを考えて施肥しなければならないことなどもこの時に初めて知り、野菜の生育にとって非常に重要なのだと感じました。また、ブドウ園に入った時も驚きました。ブドウ園の地面には、下草がたくさん生えていたからです。私は、こんなに雑草を生やしておいたら栄養がとられてしまうのではないかと思い、先生に除草をしなくて大丈夫なのか聞いてみました。すると果樹担当の先生は「わざと生やしているんだ。前任の先生は生やしていなかったけど、それだと土が固くなってしまう。何年か下草を生やして、まだ固いがようやくここまで柔らかくなった。」と話されました。

そこで、意識して地面を踏んでみると、少しだけ柔らかいことがわかりました。このことから、それぞれの人が目指す方向次第で、様々な土壤改良を行っていくことができるのだと実感しました。



高木 栞

また、私は1年次から日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会に学校代表として園芸の部に出場させていただきました。農業鑑定競技会とは、全国の農業高校生が農業に関する知識を競う競技会のことです。私はこの競技会を通して幅広い知識を身に付けることができました。その中で、野菜や果物の生理障害についても学習する機会がありました。生理障害の原因を調べると、例えばトマトの尻腐れ果の場合はカルシウム不足というように、土壤成分の不足により引き起こされているこ



*長野県南安曇農業高等学校

とを知りました。

このような日々の学習体験や農業鑑定競技会の勉強を通して、私の土壌への関心が高まってきました。そして、土壌についてより多くの知識を身に付けたいと思っていた頃、土壌医検定の申し込みが始まったと聞き、受験することを決めました。

2 試験勉強について

私の高校ではこの検定を受ける生徒が多いため、先生が毎日放課後の時間を使って講義をしてくださいました。この講義に参加することを中心に試験勉強を進めました。講義は、テキストと過去問題を中心に出题される可能性が高い部分から読み進めていき、特に重要な箇所を印をつけるというものだったため、とても効率よく勉強ができたと感じています。帰宅後は、他の資格の勉強もあり毎日ではありませんでしたが、講義で教わった部分の練習問題を中心に取り組むようにしました。また、暗記すべきことはノートに一問一答の形式でまとめ、通学の電車の中などでも勉強できるように工夫しました。当日も直前まで講義があったので参加し、できる限り多くのことを理解し覚えようと努力しま



した。

3 最後に

土壌医検定3級を通して、土壌についての基本的な知識を身に付けることができました。また、地域による土壌の性質の違いなど、意外と知らないことが多くあり、今後も勉強していく必要があると再認識することができました。この検定で得た知識は実際に普段の授業において、野菜・果樹などの栽培に役に立っていると感じますし、今後も様々な場面で生かせると思います。私は、土壌医検定を始め多くの検定に挑戦したり、地域で問題となっている広大な耕作放棄地を解消するための開墾ボランティアにも参加し、今の農業が置かれている現状について、様々な角度から勉強をしてきました。今後は、これら学びを活かして静岡大学農学部へ進学することが決まっています。

特に農業高校生で今後土壌医検定の受検を考えている方がいれば、農業高校生に求められる基本的な知識を身に付けることにもつながるので、受検することをお勧めします。

